

関西学院大学総合政策研究科リサーチ・コンソーシアム 第18回総会記念事業報告

細見 和志

Kazushi Hosomi

【記念事業の主旨】

「三田 SandA 宣言。リサーチ・コンソーシアムは大学院(総合政策研究科)と産業界との連携組織で、さまざまな課題に取り組んできました。最重要ともいえるテーマが「三田の活性化」であり、今回の記念事業でも前面に掲げました。「SandA」は単なる言葉の遊びではありません。大真面目に議論した結果でもあるのです。Sはサイエンス、Aはアーツ(人文科学)の頭文字で、いわば文理のあらゆる知の融合による地域活性化をこの三田で実現しようという試みを表現しているのです。我々が生きているのはどういう時代であり、直面する課題にどう取り組めばいいのでしょうか。そう考えたときに決して避けて通れないのが、少子高齢化の問題です。三田市は、20年ほど前、人口増加率で全国トップでした。移り住んだ人たちは当然ながら年を取り、この地域は高齢化でも、各地域に先行することになりました。一口に高齢化といっても、地域にはいろいろな違いがあります。では、三田市の特色は何でしょうか。実はこの地域には、元気でやる気十分で何より高度な技術を持った人たちが多いのです。いわば「高度高齢人材」です。

今回の基調講演者、金子忠昭教授は物理学がご専門で、三田キャンパスの教職員、院生・学生と共に、高度人材と大学の技術を結びつけることで、地域の活性化を目指そうと議論を重ねてきました。今回の記念事業はその成果を広く世に問う試みです。先に理工学部が開催した「地域創生イベント」と合わせれば、本年度はまさに本学における「融合のイノベーション」元年というべきでしょう。三田をSandAと表現するのも、そうした融合をわかりやすく示そうとしたからです。「宣言」という言葉でこの挑戦にかかわるすべての人々の思いを表したつもりです。

融合とは地域と大学、大学の文系と理系、産業と学界、グローバルとローカル、さまざまな意味における「掛け合せによる創造」を意味しています。足し算より掛け算のほうが合計値の大きくなることは言うまでもありません。地域活性化のモデルを三田で作り上げることができれば、それを全国各地に、そして世界に広げることできる、と私たちは確信しています。](第18回総会記念事業プログラムより抜粋・編集)

【総会記念講演】

テ ー マ：「融合のイノベーションー産・官・学の連携が生み出す地域創生の可能性」

講 師：金子 忠昭氏(関西学院大学大学院理工学研究科 教授)

星 エリ氏(州立ニューメキシコ大学 技術移転&経済開発事務所(STC,UNM)

大学ベンチャー&国際事業マネージャー)

司 会：小池 洋次(総合政策研究科教授)

【シンポジウム】

総会記念講演に続き、「三田モデルを求めて」と題して、3名のパネリストによるシンポジウムが開催されました。

パネリスト：太田 貞夫氏(神戸新聞社 神戸新聞パートナーセンター長、神戸新聞地域総研
所長兼論説委員、郷土振興調査会事務局長)

森 哲男氏(三田市 市長)

長谷川 計二(総合政策研究科 教授)

司 会：小池 洋次(総合政策研究科 教授)

【ポスターセッション】

神戸三田キャンパスのAcademic Commonsのアクティヴ・ラーニング・ゾーンにおいて恒例のポスターセッションが開催されました。学外会員(企業等)4件、理工学研究科11件、総合政策研究科12件、合計27件のポスター発表が行われました。

(1) 学外会員

中野 幸紀(KGUイノベーション研究センター(合同会社ジフティク代表))他1名

「国際観光立国政策とIoT時代の通信主権」

野畠 章吾((株)クロス クリエイティブ コア代表取締役)他5名

「企業における学生活動支援の意義—白山麓実習をとりまく参官民学連携から見えたこと—」

大隅 要((株)ロジックアンドサプライズ)

「外国人留学生における採用環境の実態と課題」

上杉 哲夫(エスベック株式会社 環境管理室)他1名

「エスベック(株)の森づくりセミナーと連携した関学・総政の里山実習」

(2) 理工学研究科

萩原 涼(理工学研究科 情報科学専攻 大崎(博) 研究室 M2)

「フローティングコンテンツ配信制御の提案および安定性解析」

奥殿 健(理工学研究科 生命科学専攻 宗景研究室 M1)

「Flaveria 属C₄種の維管束形成における転写因子DOF1.4の発現パターン及び機能解析」

酒井 了平(理工学研究科 生命科学専攻 沖米田研究室 D1)

「エンドソーム膜タンパク品質管理に関わるRING型ユビキチンリガーゼの役割」

田中 裕久(理工学部先進エネルギーナノ工学科 教授)他3名

「関学(理工3 学科連携)・UNM・ダイハツの共同による貴金属フリー液体燃料電池車の実用化開発」

次田 凌(理工学研究科 人間システム工学専攻 中後研究室 M1)

「複数の2DLRSを用いた移動ロボットのための歩行者検出・追跡手法の提案」

中村 遼(理工学研究科 情報科学専攻 大崎(博)研究室 M2)

「大規模 CCN ネットワークのスケラビリティ分析」

西野 希(理工学研究科 人間システム工学専攻 中後研究室 M1)

「歩行者を考慮した移動ロボットナビゲーション」

細谷 聡(理工学研究科 化学専攻 御厨研究室 M1)

「分子間水素結合を用いた鉄化合物の超分子構造」

本田 敦(理工学研究科 化学専攻 田辺研究室 M2)

「医薬品のプロセス化学：SSRI薬、乳がん治療薬の有機合成を例として」

山崎 強志(理工学研究科 情報科学専攻 巳波研究室 B4)

「災害時の拠点間連結性を確保するための道路ネットワーク設計」

湯浅 竣介(理工学研究科 数理科学専攻 森本研究室 M2)

「トピックモデルとその応用—観光地の口コミを分析してみる—」

(3) 総合政策研究科・総合政策学部

魏 小娥(総合政策研究科研究員)他1名

「奈良県における町家と町家の私用空間を利用したまちづくり計画の策定に関する研究—奈良県町家の芸術祭はならあとを事例として—」

宮崎 康支(総合政策研究科 D3)

「新聞は『発達障害』をどのように語っているのか—質的・量的手法の併用による言語学的研究—」

三谷 泉(総合政策研究科 D2)

「BPO組織におけるインフォーマル・グループのはたらき」

葛 亮亮(総合政策研究科 M2)

「日本の環境モデル都市建設に関する考察」

北岡 佑太(総合政策研究科 M2)

「自然災害の経済学に関する研究サーベイ」

小林 真洋(総合政策研究科 M2)

「丹波窯におけるアカマツ材供給と後継ぎ形態の定性的分析」

前川 裕量(総合政策研究科 M2)

「中山間地域における地域再生政策—ふるさと納税(ふるさと寄付金制度)に着目して—」

王 文凱(総合政策研究科 M2)

「環境の導入により、中国の産業変化」

佐伯 民江(総合政策研究科 M2)

「健康寿命は延ばせるのか?—「食育に生活習慣病対策を含むべき」との提言を考察する—」

辻本 和也(総合政策研究科 M2)

「電鉄を機軸とした都市再生—神戸三宮を事例として—」

辻田 百合菜(総合政策研究科 M2)

「市街地における屋上設置型太陽光発電の設置要因を加味した将来予測モデルの構築及び設置ポテンシャルマップの作成」

梅田 朋佳(総合政策研究科 M2)

「ため池の有効活用に関する研究」